

没後百年記念

## 北村透谷展 記念講演会

時 一九九四年十一月二十四日  
於 小 野 講 堂

一九九四年十一月二十一日（月）より三十日（水）まで、早稲田大学総合学術情報センター二階展示室において、「没後一〇〇年記念 北村透谷展」が図書館主催により開催された。

いうまでもなく、北村透谷（一八六八—一八九四）はわが国近代文学の先駆者として、文学史上大きな存在であるが、彼が明治十六年、前年開校したばかりの東京専門学校に学んでいることは、あまり一般には知られていない。しかし透谷は、のちに夫人となる石坂美那あての書簡の中で、「毎日書籍室に入り鬱を慰め」云々と記しており、また図書館蔵書の基礎をつくった「同政会」にも属していた。

展覧会は透谷令孫堀越真一氏、令孫故千鶴子氏夫君西城崇土氏、多摩の民権政治家吉野泰三令孫吉野泰平氏などの遺族・関係者や、町田市立自由民権資料館、小田原市立図書館、日本近代文学館などの関係機関、ならびに川崎司氏らの研究者の懇篤なるご協力により無事開催され、成功裡のうちに終了することができた。

会期中の十一月二十四日（木）、午後一時より五時まで、西早稲田キャンパス七号館の小野梓記念講堂において、記念講演会をおこなった。本稿はその記録である。講師としてお迎えしたのは群馬県立女子大学学長平岡敏夫氏、東京経済大学教授色川大吉氏のおふたり。いずれも透谷研究の第一線で活躍されている。なお、総合司会は安在邦夫本学文学部教授がつとめた。

○司会（安在邦夫・早稲田大学文学部教授）

それでは図書館長、岡澤先生からご挨拶を賜ります。

○岡澤憲美・図書館長

本日は早稲田大学にお越しくださいますて本当にありがとうございます。皆様ご承知のとおり、わが国近代文学の先駆者として知られる北村透谷が明治二十七（一八九四）年、ちょうど日清戦争の年だったと思いますが、五月十六日に亡くなられてから本年がちょうど百年目に当たります。

北村透谷は明治元年小田原に生まれ、明治十六年九月、創立二年目の東京専門学校に入学されました。当時は自由民権運動が盛んで、経国の志を持つ青年が全国から続々と新しくできたこの東京専門学校に集まってきたのであります。

ご承知のとおり、東京専門学校は明治十四年の政変で明治政府の中枢を追われた大隈重信が、あそこに銅像があります小野梓先生、高田早苗先生らとともにつくった学校であります。いまま校歌に歌われております学問の独立を標榜する反骨精神のみなざる学校であります。

透谷も実に満十四歳と九ヶ月でこの東京専門学校に入学し、明治十九年頃まで在籍した様子で、どうも卒業はしていないようであります。しかし早稲田大学にとりまして偉大な先輩であることには変わりありません。透谷の没後百年の今年は透谷の出身地である小田原を初め、幾つかの場所でそれを記念するさまざまな催しが行われておりますが、母校であり

ます早稲田大学におきましても何かやらねばならないという機運が高まり、文学部の安在邦夫先生を中心にご検討いただき、図書館主催という形で展覧会を行うことにいたしました。透谷そのものに関して資料も少なく、準備期間もあまりなかったのですが、多くの方々の温かいご協力を賜りましていま総合学術情報センター二階の展示室において開催いたしておりますので、ご覧いただければ幸いです。

そうした催しに加えまして、本日は、長年透谷研究に携わってこられました色川大吉先生と平岡敏夫先生をお招きして記念の講演会を開催することができました。両先生にはお忙しい中を時間を割いて早稲田大学に足を運んでいただき、本当にありがとうございます。

没後百年を契機に北村透谷の再評価、文学史及び近代史の上での定説の見直しなど、そういった作業も盛んになっております。この講演会をきっかけに、北村透谷とその文学、その生涯について、何よりも若い学生諸君に知っていただきたいと考えております。

先ほど控えの部屋で色川先生とお話しているときに、いまから二十五年前の透谷生誕百年祭のときには、折しも全共闘運動華やかなりし頃で、熱っぽい討論が展開されたとお聞きしております。これが機運で再び北村透谷に対して焦点が合わされることを切望しております。

図書館を代表いたしまして簡単なご挨拶に代えさせていただきます。



北村透谷

でございます。よろしく願いたします。(拍手)  
○司会

どうもありがとうございました。

それでは早速、平岡先生のご講演を賜ることにしたいと思います。いま図書館長のほうからもお話がありましたけれども、色川先生、平岡先生は透谷研究の第一人者で、その第一人者をお招きできましたことを大変うれしく思っております。それでは、「没後百年の透谷像―透谷評伝を書きおえて―」ということで平岡先生のお話を賜りたいと思います。どうぞよろしく願いたします。

